

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 ちえぶりー			
○保護者評価実施期間	R7年2月4日 ~ R7年2月28日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33名	(回答者数)	30名
○従業者評価実施期間	R7年2月4日 ~ R7年2月28日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数)	9名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年2月28日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	体を動かす活動に最適な環境 広いスペースで体を大きく動かせるような環境を提供し、子供たちの発育や身体的な発展を支援できている。	物の配置を整えており、子どもたちが移動できるようにしている。おもちゃや学習スペースの配置も明確にしており、子どもたちが自発的に行動できる環境を作っている。	成長や利用者の変化に応じて、活動しやすい環境を定期的に見直し、より使いやすいレイアウトへ改善していく。施設の安全性を継続させるために必要に応じて修繕や改良を行う。
2	長い経験を持つ保育士や障害福祉の経験をもったスタッフが居る。 豊富な経験を持つ保育士が、保護者の子育て相談に対応。専門的な知識と実践を基にした支援ができている。 障害福祉に関する豊富な経験があり、両方の観点から専門的なアドバイスやサポートができている。	定期的なケース会議を行い、職員間で情報を共有しながら、統一した支援を行っている。定期的に研修を行い、新しい支援方法や子どもたちの発達に関する知識をスタッフ全員で学び、支援の質を向上させている。	経験豊富なスタッフが新人スタッフを指導できる体制を整え、支援の質を維持・向上させる。
3	理学療法士が身体的な発育のサポートや実践的なケアを行なっている。 理学療法士が子どもの体全体の動きや生活状況を見ながら、必要な運動や支援を実践的に提供している。	一人ひとりの発達段階に応じた運動メニューを作成し、無理なく身体機能を向上できるよう支援している。保護者に向けて、自宅で出来る簡単な運動のアドバイスを伝え、日常生活の中で取り組めるよう工夫している。	支援員が理学療法士の支援をサポートできるよう、理学療法士が支援のポイントなどを伝えていく、より幅広い視点での支援を提供できるようにする。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会の実施が出来ていない。 保護者同士が情報交換出来たり育児や療育について話し合ったりできる「父母の会」の実施が出来ていない。	利用している多くの家庭が共働きであり、平日に時間を確保することが難しい。土日に開催する場合は、家庭の事情や予定が重なり、開催が難しい現状にある。	必要な取り組みとして保護者へアンケートを取り、どのような形式が望ましいか意見を集める。工夫が必要な点として、オンラインの導入を検討し場所や時間の制約を減らす。
2	地域との交流が少ない。	利用者の兄弟や関係のある方との交流は取れているが、地域の子どもたちや、地域住民の方との関わりが持てる場が少ない。	地域の施設訪問や、公園などへ行くイベントを企画し、地域の方や子どもたちと交流が取れる機会を増やしていく。
3	年齢のばらつきがある。	ニーズが多く、受け入れの幅を広く設定している。	改善に向けて必要な取り組みとして、同じ活動の中でも、年齢や発達レベルに応じた課題設定を行う。工夫が必要な点として、保護者への説明を強化し、異年齢混合のメリット（年長児のリーダーシップの育成、年少児の学びの機会の増加など）を伝える。

公表

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果

事業所名	児童発達支援ちえふりー
------	-------------

公表日 R7年3月31日

利用児童数 32名

回収数 30名

チェック項目		はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえに対応
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	28			1	未記入1	契約や見学の際に事業所を見ていたいっているが、不明点などを都度聞いて改善していく。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	25			4	未記入1	契約時に配置をお伝えしているが、より周知していただけけるよう、送迎のスタッフを固定化しないようなど工夫していく。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	26			2	未記入2	契約や見学の際に事業所を見ていたいっているが、不明点などを都度聞いて改善していく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	26			2	未記入2	清潔な空間を心がけ、子どもたちの事業所での普段の様子を写真などで伝えいく。
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	29				未記入1	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	28				未記入2	
	7 こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	29				未記入1	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	28			1	未記入1	契約時より丁寧に説明するように心がける。
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	28	1			未記入1	ご意見を参考に支援内容を職員で共有し統一した支援を行なっていくように取り組んでいく。
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	26			3	未記入1	スケジュール配布の際や送迎時に、具体的にプログラムの説明を行なって、様々なプログラムがあることを伝えていく。
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	13	3	2	11	未記入1	今後、活動機会を検討していく。
	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	29				未記入1	
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	29				未記入1	
保護者への説明等	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	16	1	3	8	未記入2	家庭支援・相談に対応しており、気付きや情報など隨時お伝えしている。今後も、家庭支援に力を入れて取り組みを行なっていく。
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	27	1			未記入2	事業所内でさらに話を深めていく、保護者に事業所の様子を共有していく。
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	28			1	未記入1	面談や送迎時のやりとりなどで家庭の困り事に寄り添えるよう、迅速に努めしていく。
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	28			1	未記入1	今後の成長、課題とともにしっかり支援を行えるように取り組んでいく。
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	4	8	11	未記入1	時期を見て、保護者会としての立案を行なっていくようにする。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	28			1	未記入1	契約時に窓口の説明をしているが、より具体的な説明を心がけ、申し入れの整備が整っていることを周知していく。

	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	27			2	未記入1	送迎や日々の申し送り、LINEでのやりとりの中で意思の疎通や情報の伝達を行なっているが、引き続き対応するとともに、不明点を回収し都度改善を行っていく。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	20	1	1	7	未記入1	毎月スケジュールや案内を行っているが、不明点を聞き、都度改善できるよう努める。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	28			1	未記入1	個人情報保護に則って対応をしていることを改めて周知徹底を行い、安心して通所が出来るように努めていく。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20	2		7	未記入1	各マニュアルに沿って、従業者の研修を行っているが、今後実施内容を周知できるように努める。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13	1		14	未記入2	定期的に行っているが、利用曜日によつて偏りが出てしまう事がある。今後は満遍なく参加して頂けるように努める。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	22			6	未記入2	契約の際にお伝えしており、不明点などを聞きとり、その都度改善を行なっていく。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	24			5	未記入1	怪我や事故が起きた際はすぐに連絡を行なっており、今後も速やかに対応ができるように努める。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	27	1	1		未記入1 毎回行くことを楽しみにしている。	通所者が安心して通所できるよう、細やかな配慮を行い、安全に通えるように努める。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	27	1	1		未記入1 先生達の名前が家で良く出ています。毎回行くことを楽しみにしている。	通所者が楽しんで通所できるよう、日々のカリキュラムなど固定化しないよう工夫・改善をしていく。
	29	事業所の支援に満足していますか。	29				未記入1 とても感謝している。	通所者も保護者も満足できるよう、引き続き統一した支援が行えるよう努める。

公表

児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援ちぇぶりー
------	-------------

公表日 令和7年 3月 31日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		現状十分なスペースを確保できている。	引き続き十分なスペースを確保するために整理整頓の実施に努める。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	9		適切に人員配置できている。	適切な人員が維持できるように努める。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		死角がない様に物の配置の工夫を行い、安全を確保している。	利用者に合わせた環境作りが出来る様に柔軟な対応をしていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		日々の清掃に加えて、ミーティングの時に気になる点を挙げて清潔に保っている。	定期的な清掃および、汚れている箇所があればすぐに清掃を行う。
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		現状十分なスペースを確保できている。	引き続き十分なスペースを確保出来る環境を整えていく。
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	9		日々のミーティングの際に、実施内容を確認し、改善に努めている。	ミーティングの中でも具体的に目標を決めて全員が意識を持って対応をする。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		アンケートに限らず保護者からの意見を広く聞く体制を整えている。	保護者の意見には耳を傾けるとともに、どういった対応が適切か多角的に検討を行い、行動に移していく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		日々のミーティングの際に意見交換を行なつたり個別で意見を聞く環境を作り、改善に努めている。	引き続きミーティングで意見しやすい環境作りや個別に意見を聞く機会を設けている。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	9			他事業所に限らず、いろいろな職種の方と交流を深め評価、改善の行動に移れるように努める。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	9		月に一度研修を実施しており、職員の知識や見解を広げている。	今後も研修の機会を設け、研修の中で事業所に取り入れられる内容があれば反映出来る様にしていく。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	9		前日に支援内容、プログラム内容を共有し、公表している。	引き続き、チームで活動プログラムの立案を行っていく。
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	9		状況に合わせて支援計画を作成している。	保護者のニーズや課題に偏りが出ないように、児童発達支援計画に反映させるように努める。
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	9		児童発達支援計画については、原案を元に個別支援会議を開催して支援計画を作成している。	引き続き、チームで支援計画を立て、それを元に日々の支援を行なっていく。
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		作成後について、ミーティングなどのタイミングで共有を行ない、支援の方向性の統一を図っている。	引き続き、チームで支援計画を念頭に日々の支援を行なっていく。
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	9		日々ケース記録を作成している。面談を定期的に行ない、その際にアセスメントを取り、それを元に作成を行なっている。	日々の記録を継続的に行ない、それを元に支援をおこなう。
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	9		支援内容に沿って適切に設定を行ない、具体的な支援を行なっていっている。	引き続き、ガイドラインに則した適切な運営を心がけて支援内容についても具体性や現実的に行える内容を設定することを続けていく。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	9		前日に支援内容、プログラム内容を共有し、改善策の共有を行っている。	今後も毎日ミーティングを行い、利用者にとって必要な支援ができるように対応する。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	9		前日に支援内容、プログラム内容を共有し、改善策の共有を行っている。	今後も毎日ミーティングを行い、利用者にとって必要な支援ができるように対応する。

19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	9		状況に合わせて支援計画を作成している。	個別活動と集団活動に偏りが出ないように、プログラムのバランスをとり、児童支援計画に反映させるように努める。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		毎日ミーティングを行い、ブラッシュアップを行っている。	今後も毎日ミーティングを行い、利用者にとって必要な支援ができるように対応する。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	9		毎日ミーティングを行い、ブラッシュアップを行っている。	今後も毎日ミーティングを行い、利用者にとって必要な支援ができるように対応する。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	9		ケース記録を取っており、起こった出来事とそれに対するアクションを検討している。	今後もケース記録は密にとり、当日出勤していないなかったスタッフにも共有ができるように努める。
23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	9		半年に一度もしくは必要に応じて見直しの機会を設けている。	今後も期間にこだわらずに必要な支援が提供できるように適宜見直していく。
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	9		児発管もしくは参加が出来る担当者で対応を行っている。	サービス担当者会議に積極的に参加するとともに事業所で開催ができるように努める。
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	9		訪問看護の看護師と連携を取り、適切な支援が行えるような体制を取っている。	引き続き連携を取り、柔軟に対応できる環境を作りおこ。
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		送迎の際に園に対して支援内容の共有を行ない、移行に向けた支援を行なっている。	引き続き、共有を行ない、情報の収集に努める。
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学校部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	9		そのお子さんに対して行ってきた支援内容の共有に努め、必要に応じて支援会議の実施も行っている。	性格や特性の共有に加えて、普段の支援内容、目標についてもお伝えできるように努める。
関係機関や保護者との連携	(28~30は、センターのみ回答)				
	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答)	9		必要に応じて連携を行い、門戸を開いた対応を行っている。	今後も担当者とは密に連携を取り、利用者にとって必要な支援ができるように努める。
	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	9		公園などへ行き、地域のこどもと関わりが出来るように工夫している。他事業所と関わる機会を設けている。	引き続きイベントなどで地域との交流が出来るように努める。
33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		送迎時やお電話での対応を行っている。	今後も保護者とのコミュニケーションを密に取り、共通の目標について同じ温度で取り組むことができるよう努める。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	9		悩みがあれば都度お聞きして必要な支援、トレーニングを提案している。	困っていることや悩んでいることがあればそれが解決できるように、事業所だけでなく関わる全ての機関と連携をとって対応を図ることができるよう努める。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	9		契約時に分かりやすく詳細にお伝えできている。	契約時以外にも変更があれば都度理解を得られるように努める。
36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	9		定期的に面談を行い、その際に保護者からのニーズや、子どもからの意志を確認し、個別支援計画書の作成を行っている。	引き続き定期的な面談を行い、適切な個別支援計画書の作成に努める。
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	9		ガイドラインに基づきその時に必要な支援を考えて作成し、丁寧に説明を行って同意を得ている。	引き続き、ガイドラインに基づき作成を行い、変更があれば都度理解を得られるように努める。
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		面談時、それ以外にも必要に応じてヒアリングを行っている。	疑問や言えていないことが残らないようにしっかりと話をしていくように努める。

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	9	保護者からのニーズがなく、交流の機会を設けることがなかった。	時期を見てニーズがあれば保護者会としての立案を行っていけるようにする。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	9	送迎時や面談時など窓口を広く設け、迅速に対応出来る体制を整えている。	引き続き、対応できる体制を維持して、迅速に対応ができるように努める。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に對して発信しているか。	9	毎月のイベントや、日々の様子を発信出来ている。	引き続き会報の作成と配布を行い、事業所でどういった支援を実施しているか周知ができるように努める。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9	鍵付きの書庫に適切に保管している。	引き続き法令に則り、個人情報の管理を適切にできるように努める。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9	地域にて必要な情報があれば事業所からも各家庭への伝達を行っている。	伝達事項があれば、誤解のないようにお伝えし、正しい情報が利用者に伝わるように努める。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	9	地域とのかかわりが出来るよう、イベント内容を工夫し、取り組んでいる。	引き続き、イベント等で地域と関わることが出来る環境の設定に努める。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	9	マニュアルを整備して定期的に訓練を実施している。スタッフ間で周知を行っている。	入社時や社内研修の際にマニュアルの確認と見直しを行い、実際の状況に即した対応ができるように努める。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	9	マニュアルを整備して定期的に訓練を実施している。スタッフ間で周知を行っている。	引き続き定期的な避難訓練を実施して、安全確保に努める。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9	アセスメントを取った際に確認する体制を整えている。	引き続き利用者の情報収集を行い、事故が起きる可能性を限りなくゼロに近づけられるように努める。
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	9	アセスメントを取った際に確認する体制を整えている。面談の際にアレルギーの追加や変更がないかを確認している。	引き続き利用者の情報収集を都度行い、事故が起きる可能性を限りなくゼロに近づけられるように努める。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	9	安全計画の計画書や研修、訓練を定期的に行い、安全管理に努めている。	引き続き、安全計画書の作成や研修、訓練などに取り組み、安全に支援が出来るように努める。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	9	安全確保は契約時に丁寧に説明を行っている。	引き続き、契約時などで丁寧な説明を行っていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9	都度作成し、共有を行っている。	定期的に事例の検討を行い、事故が起きる可能性を限りなくゼロに近づけられるように努める。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	9	定期的に研修を行っている。	入社時や社内研修の際に事例を交えた具体的な防止策を講じて、虐待の防止に努める。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行ふかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	9	該当児童はいないが、研修や委員会等を開いてスタッフ間で周知を行っている。	引き続き、必要な時に対応ができるように丁寧に説明をして理解が得られるように努める。